

学歴社会における子どもの職業的社会化についての一考察

有本章 (大阪教育大学) ○山本伊三郎 (大阪教育大学大学院)

○坂柳恒夫 (大阪教育大学大学院) 山本優子

＜研究意図＞

我が国に見られる異常なまでの進学熱、有名校集中、受験準備体制には目にあまるものがある。しかし今日では、もはやそれは異常ではなく、現代社会に適応していく上ではむしろ当然という形で国民の意識の中に浸透しつつある。これらの現象は、一般的には、我が国が明治以来構造的に温存させてきた学歴主義体制に源を究めているといわれる。この学歴主義の功罪についてはいろいろ指摘されているが、そこにおいて今日的な問題のひとつとなるのは、学歴主義がさまざまな形で教育の機能に障害をきたし、いわゆる教育病理を発生させているということである。そこで外部体系 (external system) に構造的に根ざしている学歴主義が、内部体系 (internal system) にどのように影響をもたらしているか、さらにはもっとミクロに、教育の主体たる子どものパーソナリティにどのように影響をもたらしているかが具体的に実証的に解明されねばならない。われわれは、後者に注目して「子どもの職業的社会化」の視点から学歴主義が子どものパーソナリティ、とりわけ職業観に与えるインパクトを明らかにしようとするものである。

子どもと職業観の問題は、従来は主要なテーマとならず、せいぜい付随的に取り扱われてきたといえる。しかし、深谷氏が指摘する二点、すなわち (1) 子どもの頃作られた職業への構えを土台として青年期の職業選択がなされるということ (2) 現代社会においては、子どもの職業的セルフイメージが学業成績を起点として作られていく、ということを考えてみるならば、もはや子ども

と職業観の問題は副次的な問題にとどめておくことができず、主要な研究テーマとならざるをえない。

＜研究方法＞

学歴主義の子どもの職業観に与えるインパクトを明らかにするためにわれわれがとった主な研究方法は次のとおりである。

まず第1に居住地区を媒介変数として、それぞれの地域の学歴主義の浸透度 (教育アスピレーション) を、(1) 塾通いの子どもの人数、(2) 学歴希望 (子ども、父親、母親) の二つの視点から明らかにすることによって、これが職業観 (希望職業・職業価値観) に与えるインパクトを考察する。

第2に、第1で確認できた教育アスピレーションの比較的低い地域と高い地域における希望職業の学年差の傾向のちがいを比較する。

第3に、第2と同様の視点で、希望職業と職業価値における性差を明らかにする。

第4に、第1でえられた結果を考慮にいれて希望職業と職業価値の関連性、さらには希望職業と学歴希望の関連性を明らかにする。

＜調査方法および調査対象＞

調査方法としては、子どもたちが将来どのような職業につきたいと思っているか (希望職業) (2) その際職業のどのような点を重視して選ぶのか (職業価値) の二点を中心として、さらにそれらに影響を与えていると考えられる諸要因を関連させることによって質問項目を作成した。この質問票に対する子どもの意見を聞く

のに、わかれわかれが直接小学校へ出向いて調査を実施したが、遠隔地の小学校は学校を通じて担任の先生に依頼した。なお実施したのは、昭和50年12月から昭和51年2月にかけてである。

この調査は主に大沢町の小学校の4年生・5年生・6年生を対象として8校を選定した。こゝからは、職業構成と地理的条件・観点から、農山村、住宅Ⅰ、工場、国地、住宅Ⅱ商業、諸地域のカテゴリーを前もって選定し、それぞれに該当する地域をあてはめたものである。

調査対象児童数は下に示す通りである。

(表1) サンプル数

	計	農山村	住宅Ⅰ	工場	国地	住宅Ⅱ	商業
全体	1236(4)	210	231	215	223	225	132
男	639	112	117	120	119	112	59
女	597	98	114	95	104	113	73
4年	394	62	72	72	76	80	32
5年	421	75	73	77	68	74	54
6年	421	73	86	76	79	71	46

〈結果と考察〉

I. 地域別の学歴主義の浸透度

(表2) 塾通いの子どもの人数

	農山村	住宅Ⅰ	工場	国地	住宅Ⅱ	商業
学習塾	15.3% (206)	26.3 (47)	30.2 (45)	32.7 (52)	23.9 (39)	59.6 (56)
芸術・スポーツ	88.5 (112)	83.2 (149)	81.9 (122)	74.2 (118)	75.5 (123)	59.6 (56)
運動のあそび場	12.3 (16)	22.3 (40)	8.1 (12)	23.9 (38)	27.4 (46)	17.0 (16)
行、こゝろ	38.1 (80)	22.5 (52)	30.7 (66)	28.7 (64)	27.6 (62)	28.8 (38)
計	154.2 (228)	154.3 (288)	150.9 (249)	159.5 (272)	156.4 (282)	149.7 (166)

(表3) 子どもの学歴希望

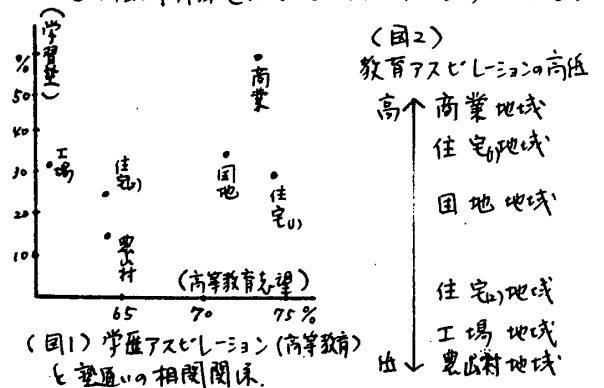
	農山村	住宅Ⅰ	工場	国地	住宅Ⅱ	商業
中学校程度	4.8% (10)	1.3 (3)	7.0 (15)	1.8 (4)	1.8 (4)	2.3 (3)
高校程度	27.6 (58)	23.8 (55)	31.2 (67)	26.5 (57)	23.3 (66)	25.0 (33)
短期大学程度	13.8 (29)	13.9 (32)	13.5 (29)	13.5 (30)	12.0 (27)	12.9 (17)
大学程度	46.7 (98)	52.8 (122)	44.2 (95)	48.9 (109)	44.4 (100)	48.5 (64)
大学院程度	3.8 (8)	7.4 (17)	2.8 (6)	8.5 (19)	8.0 (18)	11.4 (15)
その他・N.A	3.3 (7)	0.8 (2)	1.3 (3)	0.8 (2)	10.5 (10)	0 (0)
計	100 (240)	100 (231)	100 (215)	100 (221)	100 (225)	100 (132)

(1) かなりの子どもが何らかの塾へ通っている。

その中でも学習塾に関しては、商業地域が最も多く、農山村地域が最も少ない。

(2) 学歴希望においても、農山村と商業地域とのちがいが著しい。工場地域は比較的学歴アスピレーションが低い。

(3) 地域別の学習塾通いの人数と高等教育希望との相関関係をみると次の図のようになる。



2. 地域別の希望職業

(表4) 希望職業

	農山村	住宅Ⅰ	工場	国地	住宅Ⅱ	商業
技能・生産・自然	11.4% (24)	10.8 (25)	8.8 (19)	7.9 (22)	8.9 (20)	4.5 (6)
事務・販売・サービス	32.4 (68)	32.0 (74)	40.5 (87)	31.4 (70)	36.0 (81)	42.4 (56)
芸術・スポーツ	20.0 (42)	17.3 (40)	20.5 (44)	22.9 (51)	18.2 (41)	9.1 (12)
専門・技術	7.1 (15)	14.7 (34)	5.6 (12)	10.3 (23)	8.0 (19)	10.6 (14)
医療	2.4 (5)	3.9 (9)	6.0 (13)	6.7 (15)	7.6 (17)	11.4 (15)
教育	11.4 (24)	13.4 (31)	10.7 (23)	11.7 (26)	12.9 (29)	7.6 (10)
その他・N.A	15.3 (32)	7.9 (18)	7.9 (17)	7.1 (16)	8.4 (18)	14.4 (19)
計	100 (240)	100 (231)	100 (215)	100 (221)	100 (225)	100 (132)

(1) 事務・販売・サービスへのアスピレーションは、どの地域においても高い。その中でも商業地域において最も高い。

(2) 芸術・スポーツへのアスピレーションは、他の地域に比べれば商業地域が著しく低い。

(3) 技能・生産・自然へのアスピレーションは、農山村地域で最も高く、商業地域で最も低い。

(4) 医療関係においては(1)の逆である。

(5) 総体的にみれば、子どものいたる職業イメージは事務・販売・サービスのよう、比較的現

実的なもの、芸能・スポーツのよう「比較的
空想的」と思われるものに大別される。

(イ)商業地域と農山村地域とでは希望職業に顕
著な差がみられ、商業地域においては他と
比べ、専門・技術・医療が比較的多く、農山
村地域においては、技能・生産・自然が比較的
多いのが特徴的である。

3. 地域別の職業価値

(表5) 職業価値

	農山村	住宅 ⁽¹⁾	工場	田地	住宅 ⁽²⁾	商業
経済的価値	12.4 (26)	14.3 (31)	28.8 (62)	25.1 (54)	29.3 (66)	8.3 (11)
定給	4.8 (10)	8.2 (19)	8.4 (18)	11.7 (26)	7.6 (17)	8.3 (11)
労働内容	11.4 (24)	6.1 (14)	10.2 (22)	8.5 (19)	9.3 (21)	3.8 (5)
社会的名声	7.1 (15)	6.5 (15)	7.9 (17)	7.2 (16)	7.1 (16)	13.6 (18)
社会貢献	17.6 (37)	20.8 (46)	14.9 (32)	17.5 (39)	12.4 (28)	18.9 (25)
出世	1.9 (4)	3.5 (8)	1.4 (3)	3.6 (8)	1.8 (4)	5.3 (7)
労働形態	2.9 (6)	3.5 (8)	0.5 (1)	2.7 (6)	0.9 (2)	3.0 (4)
能力適正	34.8 (73)	35.5 (74)	25.1 (54)	22.4 (50)	28.0 (63)	35.1 (47)
その他・N・A	7.1 (15)	7.6 (17)	2.8 (6)	1.3 (3)	3.6 (8)	3.2 (4)
計	100 (210)	100 (231)	100 (215)	100 (222)	100 (225)	100 (172)

(イ)農山村、住宅⁽¹⁾、商業地域においては能力適
正が一番重要視して職業を選択する傾向が
みられ、その反面、経済的価値のウエイト
が低い。また、農山村においては他の地域
と比べて、労働内容が比較的高く、商業地
域では社会的名声や出世が比較的高いのが
特徴的である。

(ロ)工場・田地・住宅⁽²⁾地域においては、経済
的価値をより重視して職業を選択する傾向
がみられる。

II 1. 地域別の希望職業と学年差

以下は特に、教育アスピレーションの比較的
低い農山村地域と、教育アスピレーションの高
い地域(商業地域)一表二、三—toに注目して考
察する。

(表6) 希望職業 (学年別)

	農山村	住宅 ⁽¹⁾	工場	田地	住宅 ⁽²⁾	商業
技能・生産・自然	16.1 (10) 9.3 (7) 9.6 (7)	16.7 (12) 11.0 (8) 5.8 (5)	13.9 (10) 5.2 (4) 6.6 (5)	10.5 (8) 7.4 (5) 11.4 (9)	8.8 (7) 6.8 (5) 11.3 (8)	3.1 (1) 9.3 (5) 0 (0)
事務・販売・サービス	32.3 (20) 21.3 (16) 42.8 (25)	33.3 (24) 31.5 (23) 31.4 (27)	33.3 (24) 40.4 (31) 42.1 (32)	28.9 (22) 23.5 (16) 40.5 (32)	43.8 (35) 28.4 (21) 35.2 (28)	53.1 (17) 35.2 (17) 48.5 (32)
芸能・スポーツ	21.0 (13) 20.0 (15) 19.2 (14)	16.7 (12) 16.4 (12) 18.1 (16)	23.6 (17) 23.4 (18) 11.8 (8)	23.7 (18) 23.5 (16) 20.3 (16)	26.3 (21) 15.3 (11) 12.7 (7)	3.1 (1) 11.1 (6) 10.9 (8)
専門・技術	8.1 (5) 5.3 (4) 8.2 (6)	9.7 (7) 16.4 (12) 12.4 (10)	8.3 (6) 2.6 (2) 5.3 (4)	6.6 (5) 10.3 (7) 13.9 (11)	5.0 (4) 12.2 (7) 8.5 (6)	6.3 (2) 11.1 (6) 13.0 (6)
医療	3.2 (2) 1.3 (1) 2.7 (2)	2.8 (2) 8.2 (6) 1.7 (1)	1.4 (1) 7.8 (6) 2.9 (6)	9.2 (7) 5.7 (4) 5.1 (4)	10.0 (8) 5.4 (4) 9.7 (7)	12.5 (4) 1.7 (1) 21.7 (10)
教育	9.7 (6) 10.7 (8) 13.7 (10)	6.9 (5) 13.7 (10) 18.6 (14)	13.9 (10) 6.5 (5) 10.5 (8)	10.5 (8) 16.2 (11) 8.9 (7)	7.8 (3) 18.9 (14) 16.9 (12)	6.3 (2) 5.6 (3) 10.9 (5)
その他・N・A	9.6 (6) 32.1 (24) 2.8 (2)	13.9 (10) 2.8 (2) 6.5 (6)	5.6 (4) 14.1 (11) 15.8 (12)	10.8 (8) 13.2 (7) 0 (0)	2.3 (2) 13.0 (10) 5.5 (4)	15.6 (5) 25.8 (18) 0 (0)
計	4年 100 (62) 5年 100 (75) 6年 100 (73)	4年 100 (74) 5年 100 (73) 6年 100 (81)	4年 100 (72) 5年 100 (77) 6年 100 (76)	4年 100 (72) 5年 100 (68) 6年 100 (77)	4年 100 (76) 5年 100 (74) 6年 100 (71)	4年 100 (32) 5年 100 (57) 6年 100 (56)

(イ)学年差は、4年と6年にややみられるく
らいであり顕著な差はみられない。

(ロ)農山村地域においては、技能・生産・自然、芸
能・スポーツへのアスピレーションが、6年
生になるとやや減少し、かわりに事務・販売
・サービス、教育へのアスピレーションが増
大している。

(ハ)商業地域においては、事務・販売・サービス、
技能・生産・自然へのアスピレーションが、6
年生になると減少し、かわりに専門・技術、
医療、教育へのアスピレーションが増大し
ている。

(ニ)教育アスピレーションの高い地域では、6
年生になると専門職などのより高い学歴を
必要とする職業を志向する傾向がみられる。
一方、教育アスピレーションの低い地域で
も、6年生になると比較的学歴を必要とす
る職業を志向する傾向がみられる。

Ⅲ 1. 地域別の希望職業と性差

(表7) 希望職業 (男女別)

	農山村	住宅①	工場	田地	住宅②	商業
技能・生産自然	16.1(18) 6.1(6)	12.8(15) 8.8(10)	14.2(17) 2.1(2)	16.8(20) 1.9(2)	13.4(15) 4.4(5)	3.4(2) 5.5(6)
事務・販売・サービス	25.0(28) 40.8(60)	23.1(27) 41.2(47)	45.8(53) 33.7(32)	27.7(33) 35.6(37)	38.4(43) 33.6(38)	45.8(24) 17.7(12)
芸能・スポーツ	22.3(25) 17.3(17)	20.5(24) 18.0(15)	20.8(25) 20.0(17)	25.2(31) 20.2(21)	23.2(26) 13.3(15)	6.8(4) 11.0(8)
専門・技術	11.6(13) 2.0(2)	27.1(34) 0(0)	10.0(12) 0(0)	17.6(21) 1.9(2)	12.5(14) 4.4(5)	15.3(9) 6.8(5)
医療	1.8(2) 3.1(3)	5.1(6) 2.6(3)	2.5(3) 10.5(10)	5.0(6) 8.7(9)	4.5(5) 12.4(14)	13.6(8) 9.6(7)
教育	4.5(5) 17.4(17)	2.6(3) 24.4(28)	1.7(2) 22.1(24)	0.8(1) 24.0(25)	3.6(4) 22.1(24)	3.4(2) 11.0(8)
その他・N.A	18.7(21) 11.3(11)	6.8(8) 7.0(10)	5.0(6) 11.6(11)	6.9(8) 7.7(8)	4.4(5) 7.8(8)	11.7(17) 16.4(12)
計 男	100(112)	100(117)	100(120)	100(117)	100(112)	100(57)
計 女	100(98)	100(114)	100(95)	100(104)	100(111)	100(73)

①事務・販売・サービスにおいては商業地域では性差がみられませんが、農山村地域においてはみられる。

②専門・技術においてはどちらも性差がみられるが、農山村においてはそれが顕著である。しかし、商業地域においては、女子が専門技術を志願する割合が他と比べてずっと大きく性差が縮まっている。

③教育関係への職業につきたいと思っている女子は全体的に多いが、住宅①、工場、田地、住宅②に著しい。

2. 地域別の職業価値の性差

(表8) 職業価値 (男女別)

	農山村	住宅①	工場	田地	住宅②	商業
経済的価値	17.0(17) 7.1(7)	17.7(23) 8.5(10)	33.3(40) 23.2(22)	28.6(34) 21.2(22)	35.7(40) 23.0(26)	13.6(8) 4.1(3)
定給	3.6(4) 6.1(6)	7.7(9) 8.8(10)	10.5(12) 5.3(5)	9.2(11) 14.4(15)	7.1(8) 8.0(9)	8.5(5) 8.2(6)
労働内容	17.0(17) 5.3(5)	8.5(10) 3.5(4)	13.3(16) 1.3(1)	10.9(13) 5.8(6)	10.7(12) 8.0(9)	6.8(4) 1.4(1)
社会的名声	6.3(7) 8.2(8)	3.4(4) 9.8(10)	2.5(3) 18.9(19)	5.0(6) 9.6(10)	6.3(7) 8.0(9)	11.9(17) 15.1(11)
社会貢献	15.2(17) 20.4(20)	22.2(24) 19.3(22)	13.3(16) 16.8(18)	18.5(22) 11.3(17)	11.6(13) 13.3(15)	22.0(13) 16.4(12)
出世	3.6(4) 0(0)	3.4(4) 3.5(4)	2.5(3) 0(0)	6.7(8) 0(0)	2.7(3) 0.9(1)	8.5(5) 2.7(2)
労働形態	2.7(3) 3.1(3)	5.1(6) 1.8(2)	0.8(1) 0(0)	3.4(4) 1.7(2)	0.9(1) 0.9(1)	3.4(2) 2.7(2)
能力・適正	26.8(30) 43.7(43)	28.2(33) 43.0(47)	21.7(26) 27.5(28)	16.8(20) 28.8(30)	25.0(28) 31.0(35)	18.6(11) 47.3(46)
その他・N.A	7.8(7) 5.9(6)	1.8(2) 1.7(2)	1.8(2) 4.2(4)	0.9(1) 2.0(2)	0(0) 6.9(8)	6.7(4) 0(0)
計 男	100(115)	100(117)	100(120)	100(117)	100(112)	100(57)
計 女	100(98)	100(114)	100(95)	100(104)	100(111)	100(73)

Ⅳ 1. 地域別の職業希望と職業価値との関連性

2. 地域別の職業希望と学歴希望との関連性

(この結果・考察については、当日配布する資料を参考にされたし。)

<要約>

以上の結果を簡単に図示すれば次のようになる。

地域		商業	住宅①田地工場	農山村
社会構造	経済性	(高)	(中)	(低)
	都市化度	高(都心)	中(都郊区)	低(農山村)
	情報化度	高	中	低
教育・学歴・職業希望	学歴希望	高	中	低
	子と母	高	高	低
	学習望	よく行っている	ふつう	あまり行っていない
職業観	職業希望	IT/クラート ホワイトカラー	ホワイトカラー 芸能・スポーツ 教育(女子)	ホワイトカラー ブルーカラー 芸能・スポーツ
	職業価値	能力適正 社会貢献 社会的名声	経済的価値 能力適正 社会貢献	能力適正 社会貢献 経済的価値